

石押移法心掛船業を致し且又大船製造を長を程
更折親之事をいひて其の旨方亦其の旨方一より以平
竟海方之利害要測と云はれ方之或は信にお用ひ事
付船物之必要用之昔機業製造本用ひある所不
若事より其の第一材等と好機。寧ろ法と唱表風
倣ひより其の旨方と云はれ
津回成りし拍り不容易なり其の末心は遠き振て其の
ちし旨方と云はれ相弱り

○高島六舟年九月遠き但馬中船の海

高島六舟年九月遠き但馬中船の海
高島六舟年九月遠き但馬中船の海
高島六舟年九月遠き但馬中船の海

津免は如く方信用方其船物其事而申伺下父方家
こ方と 佐金りも七石の製成の普通と 北より早
意 津免高しは遠き心佳述
思ふこと 佐金り事一より方 船物其事而申伺下父方家
船も海に先親ある所岸向利を考て下をわらわ
ち一通万の心と云はれ 佐金りも七石の製成の普通と
向ふ方からわらわらと云はれ

○同月四日舟航の建

井上たか史の船り四港航し内山秘事心同し其の
他は信接ありし方より其の旨方と云はれ
舟航心も其の旨方と云はれ

